

平成29年度の意見交換会を終えて

PC建協では7月から11月にかけて各地方整備局、北海道開発局、沖縄総合事務局との意見交換会を行い、次のように総括を取りまとめました。

【総括】

本年度は、『改正品確法』に伴う様々な取り組みが実施されるとともに、i:Constructionの推進が図られるなか、昨年度からの継続テーマとして「1. 担い手確保」「2. 生産性向上」「3. インフラ長寿命化」をメインテーマとして報告・提案を行った。

1. 担い手確保の推進

(1) 年度工事量の安定的確保

PC建協としての最重要課題として強く要望した。「予算確保や事業の進捗状況に左右されることなく、多くの安定的な工事量とはならないことをご理解いただきたい」旨の回答が多かったが、地域拠点の安定的経営や担い手確保の観点から年度工事量の安定的確保が重要

な課題であるという認識は深まり、「できるだけ努力する」旨の回答も一部でなされた。

(2) 若手および女性の活躍を推進する入札制度の提案

(a)若手活用については担い手の育成の観点から各整備局等とも提案趣旨の理解は得られたが、「技術者の実績は品質を確保する上で極めて重要な評価項目である」旨の回答が多かった。(b)女性活用についても趣旨の理解は得られたが、成績評定への反映については、一部を除いて消極的な回答が多かった。

(3) 完全週休2日モデル工事の推進

「週休2日実施委員会」の設置等、PC建協の取り組みを紹介したうえで提案を行った。各整備局等とも非常に前向きであり、受注者希望型でペナルティはない方式を採用する旨の回答が多かった。週休2日を実施した上で発注者、受注者間で課題を共有することについても理解が得られ、整備局等からPC建協に対する積極的な取り組みの要請もなされた。

(4) 適切な工期設定および工期を延伸する場合の配置技術者の拘束緩和

受注者の責に寄らない理由による工期延長などは、「発注者と受注者との協議に基づき変更可能」との回答もあったが、「監理技術者制度運用マニュアルから対応が難しい」との回答もあった。余裕期間試行工事については、現場条件等に応じて積極的に活用したいとの回答が多かった。

2. 生産性向上の推進

(1) プレキャスト技術の採用拡大

「Bridge」の柱としてプレキャスト技術の活用を位置付けたことを受け、プレキャスト採用の拡大に絞って提案を行った。提案に当たっては、「スパン25m〜45m程度の橋梁は、原則としてプレキャスト構造の採用」と明確に打ち出し、その根拠としてPC建協で検討した総合的な評価手法を紹介した。「コンクリート生産性向上検討協議会」での議論が進んでいることもあり、プレキャストの意義、利点についてはさらに理解が深まったと考えられる。その一方、構造形式の選定に関しては「総合的な比較評価を行っている」旨の回答が多く、具体的な内容までは触れられてお

らず、PC建協の提案に対する直接的な回答も十分には得られなかった。勉強会の実施については、一部の整備局等で賛同が得られた。

3. インフラ長寿命化への対応

(1) 技術提案・交渉方式の試行工事の発注

昨年度からの継続テーマであるが、PC橋梁において適用対象となるタイプを具体的に示すなど昨年度より踏み込んだ提案を行った。同方式について各整備局等への浸透が進んだこともあり、昨年度より前向きな回答が多く得られた。また、PCの保全・補修事業において専門的かつ高度な技術が必要であるという認識が深まったと考えられ、一部の整備局等で勉強会発足の動きがある。

(2) 国交省による直轄代行業務を含めた地方自治体への支援

道路メンテナンス会議における意見交換等、整備局等による地方自治体への支援を充実させることに関しては積極的な回答が得られた。その一環としての直轄代行事業に関しては慎重な回答が多かったが、総じて昨年度よりは前向きな姿勢が見られた。



▲ PC工学会との意見交換会

平成29年度 PC工学会と意見交換会を開催

PC工学会(会長、副会長、理事)との意見交換会を、平成29年10月27日、PCシンポジウムに合わせて開催しました。今年で6回目。

PC工学会から「PC工学会会員増加への取組み」「PCアーカイブスの取組み」、PC建協から「PC技術専門家派遣の取組み」「生産性向上の取組み」の報告があり、PC普及に向けた取り組みや建設業界における明日の担い手の確保について意見を交換しました。



▲ 平成29年度道路功労者の表彰者

平成29年度 道路功労者表彰

道路整備事業や道路愛護・美化保全などに推進・尽力した団体・個人を対象とした「平成29年度道路功労者」がこのほど発表され、PC建協が推薦した3人が表彰されました。

この表彰制度は平成26年から日本道路協会が行っているもので、毎年8月10日の「道路の日」に表彰状と記念品が贈呈されます。今年には62人と125団体が表彰されました。PC建協が推薦し、今回表彰された方々は次の通りです。

(株)富士ピー・エス 藤木和敏氏
(株)ピーエス三菱 森下健二氏
オリエンタル白石(株) 神山正成氏



▲ 式典後の祝賀会にて

平成29年度「優秀施工者国土交通大臣顕彰」、「青年優秀施工者土地・建設産業局長顕彰」

平成29年10月6日、東京都港区のメルパルクホールにて、平成29年度「優秀施工者国土交通大臣顕彰(建設マスター)」、「青年優秀施工者土地・建設産業局長顕彰(建設ジュニアマスター)」の顕彰式典が開催されました。今年で26回目です。

この建設マスターは優秀な建設技能者を国土交通大臣が顕彰する制度で、現場経験20年以上で年齢40歳以上60歳以下などが対象となります。また

平成27年からは若い技能者の育成促進策の一環として、現場経験10年以上で年齢39歳以下を対象とした建設ジュニアマスターを設けています。

式典では、優秀な技能・技術を持ち、後進の指導・育成などに多大な貢献をした建設技能者417人が建設マスターとして、また、今後さらなる活躍が期待される技能者108人が建設ジュニアマスターとして顕彰されました。

PC建協からは建設マスターを4人、建設ジュニアマスターを2人推薦し、合計6人が受賞されました。なお、顕彰者は次の通りです。

建設マスター

氏名	所属会社	推薦会社
大迫 直昭	さいとうPC建設(株)	(株)日本ピーエス
伊東 敬剛	東栄建設(株)	昭和コンクリート工業(株)
木村 仁	(株)佐藤土工	(株)ピーエス三菱
平 喜好	(株)ササイ	三井住友建設(株)

建設ジュニアマスター

氏名	所属会社	推薦会社
菅原 寛	(有)P・Cカンパニー	オリエンタル白石(株)
原田 充	さいとうPC建設(株)	(株)日本ピーエス

現場見学会開催

PC建協支部が主催者とする現場見学会が各地で開催されました。

【北海道支部】

平成29年11月20日に国際協力機構（JICA）の研修生を対象に北海道登別市のドービー建設工業（株）幌別工場でPC工場見学会を行いました。北海道開発技術センターの依頼によるもので、ウズベキスタン、ウクライナ、タジキスタン、モルドバ、キルギスの5カ国11人が参加しました。当日はプレテンションホロー桁の製造ラインなどを案内し、研修生から多くの質問が寄せられました。



▲ PC製造ラインを見学する研修生

【北陸支部】

平成29年10月14日に福井県福井市の「北陸新幹線福井高柳高架橋」の工事現場で近隣の小学生32人を対象に現場見学会を実施しました。本橋は橋長2615m。ラーメン高架橋35連、RC橋脚31基、RC場所打T桁橋54連、P P C T桁橋6連、P P C 箱桁橋6連（熊谷・日本・ピーエス・坂川・轟特定JV）です。当日は事業概要と工事進捗を説明後、施工中のPC構造物や建設機材の見学を行いました。



▲ 北陸新幹線福井高柳高架橋を見学した子どもたち

その他

【関西支部】

平成29年10月16日 三井住友建設（株）能登川工場 近畿地方整備局16人

PC技術専門家を派遣

PC建協では、多くの学生にPC構造に興味を持ってもらうことを目的にPC技術専門家を派遣しています（P10特別企画を参照）。

【四国支部】

平成29年11月2日に阿南工業高等学校の学生約25人に講義を行いました。今回の学生は半年前の5月29日に徳島県阿南市の国道55号阿南道路中島高架橋で実施した現場見学会の参加者で、講義内容もこの時の事柄と連動させました。まず講師からPC業界の企業や仕事内容を紹介し、次にPC板、PC鋼材、支承材のサンプルを提示。ひととおり説明した後、施工班と設計班に分けてのグループディスカッションを行いました。学生たちは活発に発言し互いに議論を交わしていました。

【北陸支部】

平成29年10月4日に金沢大学理工学域環境デザイン学類の3年生84人に「PC橋の設計および施工法に関する話題」と題した講義を行いました。講義ではPC技術の歴史と適用分野、PC橋の施工の解説と、北陸地方の代表的なPC構造物の紹介を行いました。



▲ PC鋼材に興味を示す阿南高専の学生たち

その他、平成29年10月以降に実施されたPC技術専門家の派遣講義は次の通りです。

開催日	支部名	学校名
10月10日	九州	鹿児島大学
10月25日	関東	前橋工科大学
10月30日	関東	東京大学
10月31日	北陸	長岡工業高等専門学校
11月1日	関東	日本大学(生産工学部)
11月7日・14日	北海道	苫小牧工業高等専門学校
11月14・15日	関東	東京理科大学
11月25日	関東	日本大学(理工学部土木工学科)
11月30日	北陸	富山県立大学
12月1日	北陸	福井工業高等専門学校
12月6日・13日	関東	宇都宮大学
12月7日	北海道	室蘭工業大学
12月12日	北海道	北海学園大学
12月13日	東北	秋田大学
12月15日・22日	九州	九州大学
12月18日・21日	関東	東海大学
12月20日	関東	芝浦工業大学

各地でPC技術講習会開催

【北陸支部】

平成29年11月10日に新潟県新潟市の新潟自治会館で、17日に石川県金沢市の石川県地場産業振興センターで「第3回わかりやすいPC橋の施工研究会」を開催しました。北陸地方整備局、各県、各市町村の職員を対象とした研究会で、当日はPC建協の活動報告とPC市場の動向、PC構造物の生産性向上技術や新設橋・床版取替工事の概要などについての講習を行いました。



▲ わかりやすいPC橋の施工技術研究会（金沢）

【中部支部】

平成29年11月14日に三重県津市の三重県男女参画センター「フレんテみえ」で行われた「平成29年度第5回技術セミナー（主催：三重県測量設計業協会）」で「新技術・新工法」を副題として「プレストレストコンクリート・PC橋の留意点」について講習を行いました。当日は約120人が聴講し、具体的な図や写真を示しながら説明しました。



▲ 120人が聴講した技術セミナー

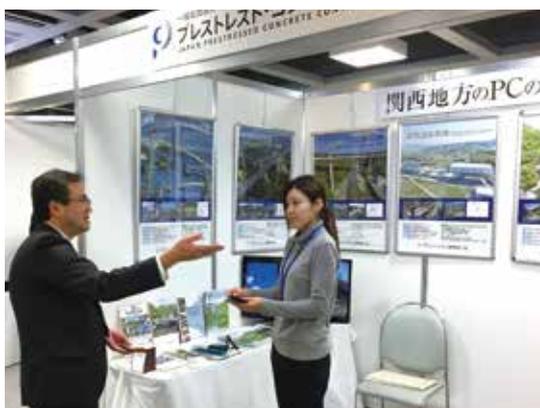
その他、平成29年11月以降に実施した講習会は次の通りです。

開催日	支部名	対象者	講義内容	
10月	11日	北陸	北陸地方整備局、北陸各県市町村職員	コンクリート橋の損傷、補修・補強
	11日	九州	大分県、大分県市町村職員	PC橋の架設、施工管理、点検、補修、耐震補強、熊本震災報告、PC構造物施工例
	18日	東北	福島県橋梁技術講習会参加者	コンクリート橋の設計・施工、チェックポイント、最近の話題
	19日	中国	建設コンサルタツ協会中国支部技術講習会参加者	PC技術
	20日	北海道	コンサル若手技術者	PC橋の設計、架設、維持管理の基礎
	25日・26日	九州	宮崎県、宮崎県市町村職員	PC橋の架設、施工管理、点検、補修、耐震補強、熊本震災報告、PC構造物施工例
	27日	北陸	北陸地方整備局、新潟県、新潟県市町村職員など	コンクリート橋
11月	8日	関東	さいたま市建設コンサルタツ協会セミナー参加者	オリエンタル白石工場見学、座学
	14日	東北	東北地方整備局	道路構造物管理実務研修橋梁初級Ⅱ
	17日	東北	岩手県橋梁技術研修会参加者	PC橋の構造特性、維持管理、設計・施工
	23日	関東	埼玉県職員	PC橋の概要、計画・設計照査、施工管理、補修補強設計、保守、施工のポイント
	29日	九州	建設コンサルタツ協会九州支部セミナー参加者	PC橋の架設、施工管理、点検、補修、耐震補強、熊本震災報告、PC構造物施工例
	29日・30日	北海道	北海道開発局技術講習会参加者	PC技術、意見交換

第26回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウムに出展

PCに関する講演会や最新のPC技術が展示される「第26回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム（主催：PC工学会、後援：PC建協）」が平成29年10月26日と27日の2日間、神戸市東灘区の神戸ファッションマートで開かれました。

今年は676人の来場がありました。PC建協のブースでは、橋梁模型と関西地方のPCの主要事業のパネル7枚の展示に加え、モニター上映（PCのニューフェイスたち）を行い、多数の来訪がありました。



▲ PC建協の展示ブース

建設技術展示会に出展

最新の土木建設技術を展示する「建設フェア」が名古屋、大阪、広島で開催されました。

【中部支部】

平成29年10月18日と19日の2日間、名古屋市の吹上ホールで「建設技術フェア in 2017 中部（主催：国土交通省中部地方整備局、名古屋国際見本市委員会、後援：PC建協など）」が開かれました。

今年も中部支部は会場内の学生交流ひろばへブースを出展し、学生や教職員などにPC業界での仕事について体験談を交えて紹介しました。



▲ 学生にPRする中部支部

【関西支部】

平成29年10月25日と26日の2日間、大阪市中央区のマイドームおおさかで「建設技術展2017 近畿（主催：日刊建設工業新聞社、近畿建設協会、共催：PC建協など）」が開かれました。

関西支部もブース出展し、PC技術に関するパネルやPC橋の模型を展示し、来場者にPC技術を説明するなどのPRを行いました。また『学生のためのキャリア支援』のコーナーでは相談員として学生たちにPC業界の概要や仕事内容を紹介しました。



▲ 関西支部の出展ブース

【中国支部】

平成29年11月10日と11日に広島市中区の広島市中央公園で「建設技術フォーラム2017 in HIROSHIMA（主催：建設技術フォーラム実行委員会、協賛：PC建協など）」が開かれました。

中国支部は「橋の長寿命化、100年橋梁」をテーマにセミナーを行いました。出展ブースでは組立式模型によるPC橋の施工体験、生産性向上に繋がるPC構造物のプレキャスト技術、施工時のCIM活用実績などを紹介しました。また「PC板上で飛び跳ねる体験コーナー」を設け、プレストレス力による復元力を来場者に体感してもらいました。



▲ 来場者にPC技術をPRする中国支部

PC建築フォーラムin大阪 2017を開催

若い建築家や学生にPC建築の美しさや魅力を紹介する「PC建築フォーラム in 大阪」が平成29年10月28日と29日に大阪府吹田市の大阪大学で開催されました。主催は（NPO）PC建築技術支援センターと関西PC研究会、後援はPC工学会とPC建協です。

初日は127人が参加しました。まず「建築におけるPC技術の展開」と題した鈴木計夫関西PC研究会代表（大阪大学名誉教授）の基調講演から始まり、次に大野義照PC建築技術支援センター理事長（大阪大学名



▲ 甲子園会館を見学する参加者たち

誉教授、PC建協理事）がPC建築の事例を紹介しました。続いて、リーチェル幼稚園（静岡県富士宮市）、どろんこ保育園（福岡市博多区）、田辺スポーツパーク体育館（和歌山県田辺市）を題材に、PC建築の事例と特徴の解説と「PC建築の魅力」をテーマにパネルディスカッションが行われました。

2日目はPC建造物の現場見学会が催されました。新大阪駅から淡路島の兵庫県洲本市まで広範囲でしたが、参加者たちはPC建築物の美しさと魅力を改めて感じ入っていました。

平成29年度総合防災訓練

四国地方整備局は平成29年11月1日に「平成29年度総合防災訓練」を行いました。これは南海トラフ地震を想定した訓練で、「世界津波の日（11月5日）」に即して実施されたものです。内容は地震初動2日間における確認で、ひとつは地震対策本部での情報収集や応援体制の確立といった災害対応基本導線の確認訓練、もうひとつは各災害現場での応急組立橋架設や港湾施設の点検などの実働訓練です。PC建協は「災害時における四国地方整備局所管施設の災害応急対策業務に関する協定書」に沿って、この訓練に参加協力しました。

全国から開通情報

（東北支部）
東北中央自動車道（福島大笹生IC
～米沢北IC） 開通



▲ 東北中央自動車道 福島・山形合同セレモニー
（提供：福島民友新聞社）

平成29年11月4日に東北中央自動車道の福島大笹生IC～米沢北IC（延長35・6km）が開通しました。

今回の開通で栗子峠を回避する栗子トンネル（延長8972m）が利用可能となり、福島市役所～米沢市役所間が約20分短縮され約40分となりました。

山形県米沢市で催された福島・山形合同セレモニーでは石井啓一国土交通大臣や地方自治体関係者など約300人が出席し、テープカット、くす玉開披、通り初めのパレードが行

われました。

三陸沿岸道路 山田宮古道路（山田IC～宮古南IC） 開通

平成29年11月19日に、三陸沿岸道路山田宮古道路の山田IC～宮古南IC（約14km）が開通しました。東日本大震災後に事業化された復興道路・復興支援助路としては山田宮古道路が初めての開通となります。この区間は津波浸水域を避けており、今回の開通で岩手県宮古市役所から隣町の山田町役場まで約25分で結ばれました。宮古市で催された開通式では地方自治体関係者によるテープカットとくす玉開披が華やかに行われ、開通記念ウォーキングとパレードが実施されました。



▲ 山田宮古道路 開通式（提供：建設新聞社）

編集委員会

上野 進一郎（編集委員長）、 櫻福 浄（副委員長）、
高松 正伸（副委員長）、 鈴木 裕二、 吉山 誠之、 竹本 伸一、
的場 純一、 深谷 浩史、 松嶋 憲昭、 石井 一生

編集幹事会

久我 誠志（幹事長）、 小谷 仁（副幹事長）、 荒畑 智志（副幹事長）、
小出 武、 俵 綾子、 栗川 修、 南 浩郎、 三本 竜彦、 木下 拓三、 菅野 隆、
太田 誠、 清水 郁子、 上田 孝明、 寒川 勝彦、 岩崎 麻美、 小田切 隆幸

編集後記

日本遺産に認定されている山形庄内地方に行ってきました。取材当日はあいにく天候に恵まれませんでした。羽黒山の石段とスギ並木はかえって雨に濡れたほうが幻想的で心が洗われたような気がしました。この取材を通して接する方々の優しさや心使いに癒されました。時間が足りないなかでも何かを感じることができ、今度はぜひ時間をかけて出羽三山を巡り、生まれかわりを果たしてみたいと思いました。

また特別企画では、「PC技術専門家派遣事業」と題し、今まで取組んできたPC技術の拡大とこれからの担い手確保を講師・先生・学生の視点から記事にしております。

今後ともPC建協はPC技術の普及と発展に貢献していきますので、ご指導ご鞭撻を頂ければ幸いです。

（菅野）